

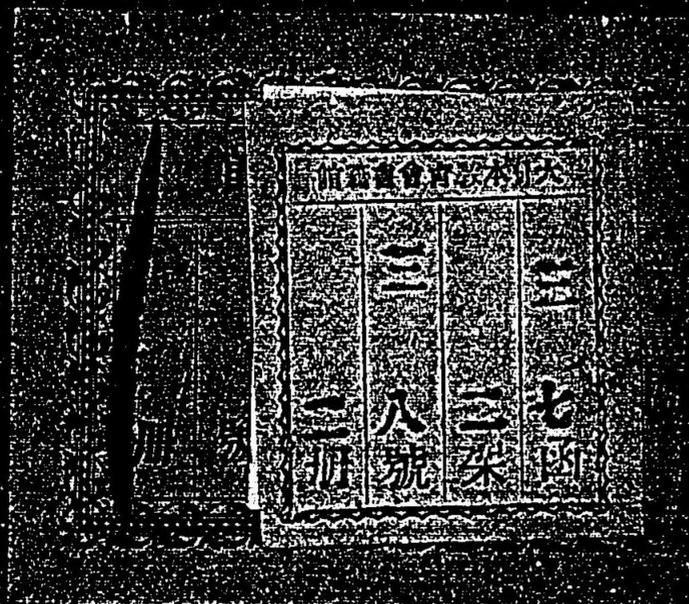
神事
乃里登作例

松下隆和著
藤原奔盛訂正

上

特36

592



014534-001-4

特36-592

乃里登作例(神事)

松下隆和/著

1冊(上21丁)

M17

ABB-0918



正七位松下隆和著
藤原季盛訂正

作例出部

神事 乃里登作例

文廼舎藏版

特36

592

今法大御代を以て此事も物も
其の行の亦亦を以て是の古の事
制能きし傳録を以て解する可也
事々々々便々々々書等の法彼亦
出来たる事々々々々々々々々々
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

正七位松下隆相若
藤原季盛訂正

作例出部

神乃里登作例

文廼舍藏版

今此大御代意之為此事も物也

案此の申事も申事は是の古の事

制は是の傳は是の事なり申事は是の事

事は是の便に是の事書等のは是の事

出来は是の事は是の事書等のは是の事

事は是の事は是の事書等のは是の事

時36

592

其の大方有はるはるの如くはるはる
爾等白くはるはるの如くはるはる
便に終書はるはるの如くはるはる
九阿らぬ事も思はるはるの如くはるはる
るはるの如くはるはるの如くはるはる
許よはるはるを贈らるはるの如くはるはる

其の初学はるはるの如くはるはる
其の如くはるはるの如くはるはる
其の如くはるはるの如くはるはる
其の如くはるはるの如くはるはる
其の如くはるはるの如くはるはる
其の如くはるはるの如くはるはる
其の如くはるはるの如くはるはる
其の如くはるはるの如くはるはる

熟く識るたふまはるはらむをばあまの
 阿多末をゆめさるるまのまらぬる
 遠の茂

井上頼國

神乃里登作例

一 此書を。神事乃里登作例。と号すし由縁を。神の御
 前小白き詞よ。種々の區分あるを。先づ祝詞とい
 ふ。何と。拜詞何と。祭文何と。然きども。これを推立
 て。乃里登とい。因之普通の如く此書ふる。多
 ぶ。神事乃里登作例を題せ。李。
 一 諱辭を作せむと欲せむ。先づ作例の部を熟讀し。
 然して後。意の随々類語。此部より。抜粹して。綴る
 可し。

一 上卷。作例の部ハ。初學の爲短文。好むを掲る。又

其上欄を略解せしむ。限無む態あるを。些少の紙
 員を曰解せれば。其意の徹せざるハ之を恕せよ。
 一下卷。類語の部ハ。萬言の中。其要とを留所を引出
 掲るまじ。餘る已が心々ふ言美しく綴成を法と。
 一下卷。上欄ふ主司神。並諸業祖神略を列記せしハ
 初季ふ。便ふ良志免む為あり。其略せしむ及て。繁
 襍を厭て那りまじ。
 一同上欄。ふ諄辭の一句成ふせし語ハ。逐一ふ是を
 記せば限は無む態あり。はまじ其千々の一は記
 して。参考れ為よ掲まじ。隨て解も大略せよ。

一諄辭を無限ふして。小冊子を以て盡む可なり
 非れども。輕便な旨とせよ。

一中世の頃の諄辭ハ中ふ。方今猥りよ不可用の辭
 あじ。夫を其例を在ふ掲多。点を以在傍に附す。
 餘を推て知可し。

三粟乃中御世里外罔々乃横乃道乃渡來乃
 行須奈邪說乎上無支物止說弘流事知人乃
 如久噪岐漫里皆人其率里諸越乃戎乃惠美斯
 乎日知止敬比伊那志許米穢支底乃國邊乃國乃
 乞食乃祖尔諂比客神止尊美奇靈尔畏支皇神乃

○の記と作例

○P二

神隨流那大道乃中尔生弘在良賀其御蔭乎不思
 神乃惠乎大吕加尔思居留人多在支乃云々
 一 諄辞の作法を左の如し

○祭各自商業祖神詞

掛卷母綾尔畏支 二下前卷面十 已我家業乃祖神止 見所合々
 綴登齋奉習 前十五 某神乃大前尔。姓名 見所合々 鹿成
 膝折伏 前十三 畏美 畏美 白久 前十二 一是段みて
 大神乃廣支厚支恩頼乎 十五 十六 後前 蒙里家業乃 部辞見の
 合綴 日尔異尔 後八の 繁久 榮行乎辱美那 情志美 禮謝
 左年止 部辞の 今 日乎生日乃足日止 前十五 撰定 氏米 後八
 志氏。

此乃小床乎掃清氏奥山乃小柴我枝乎打折持來
 氏伊豆乃真坂樹止二所尔刺分氏 四三 前後 今乎盛止
 咲匂布時乃花母乎取添氏神籬成波 八 前上 欄 十 後 四 齋
 奉里 前十五 荒幣和幣乃幣帛 前十一 取置氏 八 取乃 机
 尔置備 後十一 奉物波 後十二 洗米堅鹽美毛比御酒波
 甕瓮高知甕腹満竝 氏 青海原尔住物波 鱈廣物鱈
 狭物海底尔生物波 奥津藻菜邊津藻菜大野原尔
 生物波 甘蔗菜尔至泥 神部 禮代止奉進氏 後十二
 畏美 畏美 白久 前十二 殿是 神部 禮代止奉進氏 後十二
 某大神如此刺立奉留神乃小床尔安久御堅 氏 欄上

○のどと作例

○ロノ三

前十四 如此禮慕比切奉仕淨支赤支心乃誠乎
 御心母愛久所思志惠美給比憐美給比
 落牟事乎見直志聞直志堅氏前十三 此奉進多米都
 物乎御心毛和親尔部辭の平久安久前十二 安幣帛乃
 足幣帛止前後一聞食氏前十二 猶行往母前十七 嚴乃御
 靈乎幸給比後十三 壽長久前十八 神乃御祭彌遠長尔
 仕奉米給幣家乃業波部辭の彌繁尔繁里彌昌令昌
 給幣後十四 家内物等已兆々不令有親尔睦備前十八
 惠々良々尔笑比前九 饒波門止令有給幣諸乃禍
 事波不萌前尔遠久掃除給比部辭の子孫前九 八十

連屬後十八 親名不失前十八 令立榮給幣部辭の妻子親
 族尔光二前後一至迄病煩支志事无久部辭の夜乃守日乃
 守尔守幸幣給止幣姓名前十三 開手拍上拜美後十二 畏
 美畏毛白須前十二

まづ如此最初此一段ハ神夏を行ふ由縁。次の段
 々祭式の狀。下の段ハ祈願申夏那也。ま由某神と
 何所へも。祖神數神堅きバ逐一御名を稱べ
 し。然る時ハ第二段の初。大神乃とある所。大
 神等。とほべし。神饌此段ハ其時々の實を揚ほし。
 一今此所。神社祭式中。元始祭乃祝詞。是也

○のこたと作例

○P、四

俗解せが如何成意あらむと思ふ時ハ尤此如し。
餘乃祝詞拜詞祭文等も此例小准を修し。

元始祭祝詞 一月三日

掛卷母恐伎 前十二

其神社乃大前オホマヘ尔ニ宮司位苗字名 聞如カえカるカ恐美恐

美白ミホシ左サ 十二前マヘ是ニふ

年始乃今日乃祭尔大前尔 文都ツのツ如ツ此ツ 持齋チ麻マ波ハ 三十

前但マ持チ持チハ神 慎美シ敬キ比ヒ奉ホウ留リウ 合辞ジのノ部ブ見ミ 御食波和

稻荒稻尔御酒波ハ獲ウ上ノ高カ知チ甕ウ腹ハ满ミ竝ナ豆マ 鱈乃广物

鱈乃狭物奥津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜尔至 氏留ル麻マ

十前マヘ神カミ 置足タラシ 氏波ハ志シ 仕奉ツク留ル事コト乎ヲ 部辞ジのノ 平良ラ氣キ安ヤス久ク良ラ氣キ

聞食氏 前十二

天皇乃 前二大朝廷乎 前三始氏 部辞ジのノ 四方ホウ匡クニ乎ヲ 前六堅磐

尔常磐 後十三守幸 倍波ハ給タ比ヒ 前十二仕奉留 部辞ジのノ 百官

人等 前九一公オホミタカラニ民タチ 後九一 至留ル麻マ 部辞ジのノ 伊加志夜具波

夜乃如久立榮 米志シ給タ幣ヘ 前十四白須事乎聞食 止世セ 部辞ジのノ

恐美恐 毛美ミ白シラ須ス 前十二

先づ如此此餘諄辞を解し那とせせと欲せむ此
例小倣ゆふし。

一 倣た諄辞あり其を少し文を作り替むせせが前

○の巴と作例

○〇ノ五

例乃如くして其要ある所を類語の部とて引出
 綴ふべし。譬へど。原文ふ。御酒云々。とある所は。甕
 瓮高知甕腹満竝。とし。洗米とあるは。御食。とし又
 天津神因津神とあるを。天津御神八百萬因津御
 神八百萬とあるは類あり。
 一類語此部悉くを掲げれど。夫ハ前後能々見合綴
 成。美曾岐被詞の中ふ。皇御祖。等。詞那。皇
 元則第二類中ふ。祖。ハ第十七類中。我親御
 祖。此所より綴合を類ふ。此餘を詞の活用を熟
 知を。知を。知を。

引書目録

- | | |
|---------|--------|
| ○古事記 | ○古事記傳 |
| ○日本書記 | ○歷朝詔詞解 |
| ○古語拾遺 | ○玉勝間 |
| ○延喜式 | ○鈴屋集 |
| ○萬葉集 | ○大祓詞後釋 |
| ○類聚和名抄 | ○祝詞解 |
| ○神社祭式 | ○祝詞考 |
| ○内侍所獻供圖 | ○冠辭考 |
| ○神宮明治祭式 | ○家茂翁家集 |

- 古史成文
- 古史傳
- 古孝諄辭集
- 玉多須伎
- 天朝無窮曆
- 祝詞式正訓
- 官比神御傳記
- 天滿官御傳記略
- 祝詞略解
- 古今要覽稿
- 松屋文集
- 松屋文後集
- 大祓詞後々釋
- 大祓執中抄
- 古文彙
- 祭文例
- 私祭要集祝詞

神乃里登作例上出卷目錄

- 一月一日 藤原 宣隆 初葉前
- 正月十五日 藤井 高尚 初葉後
- 祈年祭 私人祭 六人部是香 三葉前
- 田遊祭 平田 篤胤 四葉前
- 火舞祭 平田 篤胤 五葉後
- 奉遷鎮稻荷大神 岡部 真淵 六葉後
- 御璽 岡部 真淵 六葉後
- 祭相殿堅稻荷神 岡部 真淵 八葉前
- 祭大雷神 平田 篤胤 十葉前
- 拜藥神 本居 宣長 十一葉後

○のり登と作例

○上目

○祭大國主神	藤井	高尚	十二葉前
○祭大官能女神	平田	篤胤	十三葉後
○祭菅原神	平田	篤胤	十五葉前
○祈雨祭	六人部	是香	十五葉後
○祈晴祭	六人部	是香	十六葉後
○祈渙獵	藤原	宣隆	十七葉後
○祈瘡病	藤原	宣隆	十八葉前
○御廐改造祭	藤井	高尚	十八葉後
○地震祭	六人部	是香	二十葉前
○諸社拜詞	平田	篤胤	二十葉後

作例畧解

○一月一日

掛母畏支類第十卷
 十語二前小解下卷類
 省類語の五下字畧
 省せり其心得有
 べ我大神常小奉
 恐美云十二新年
 新月云如朝日々
 九大神御饌前皇神
 其社平久云二十
 祭神乃穗前十
 前赤丹乃穗前十
 聞食止白須是前一

神乃里登作例上之卷 作例之部

松下隆和編嗣

藤原香盛校正

○一月一日

掛母畏我大神乃大前
 恐我大神乃大前
 白久新年乃新月乃新日乃朝日乃豐
 榮登拜美仕奉留大御饌大御酒
 皇神乃御心平久安久赤丹乃穗
 聞食止白須如此仕奉流依氏今毛往
 前毛皇御孫命乃御世乎手長乃大御

○のこしと作例上

○一

段如此奉仕云是
上を受皇御孫命
云三湯津磐村五十
後伊波比依志齋
王茂御世云前三親
云十三天下云如
公民云後一守給
以下十
二前
○正月十五日
我皇大神常小奉
常例乃隨迹定祭

世止湯津磐村乃如冬伊波比依志奉
里茂御世乃足御世尔福幣奉里仕奉
流親王諸王諸臣百官人等乎彌高尔
彌廣尔伊加志八桑枝乃如冬令立榮
給比天下泰平尔公民等乎守給比惠
給幣恐美恐母稱辭竟奉止白須
此々各々常小仕奉大神乃御前
小白と祝詞云
○正月十五日
我皇大神乃大前尔申左常例乃隨尔

清里波參出來
身神前朝日豐
逆云朝日豐登
豐御酒云總九部
九後と稱辭竟奉
十二與御年祈其豐
前も祈御年神德
奉る祈御年神德
部伊佐那比誘須
々女云其御給也
扶け給ふ事徳を
り了代任奉事の
御年始即ち神税
民吉備乃道乃中

官司祝部等齋比清里波參出來正
月乃十日餘里五日乃朝日乃豐
逆登尔立奉留豐御酒大御食尔海山
乃物母備奉里稱辭竟奉今年乃御
年祈白須如此祈白波御年乃神乎伊
佐那比賜比須々女給比其御業乎穴
比賜比扶計給布支尔依志皇大神乃
御刀代乎始此吉備乃道乃中乃民
等乃作止作物波惡風荒水尔阿波受
豐尔榮支奴倍物尔在良曾々毛々此宮

○の記と作例上

〇二

云是ハ藤井氏の
吉備乃道乃中
ど外々例ふ
むら作止作物
北前此宮地文如御
後御皇大神乃敷
諸室其氏地心
堅合々御普請を
を合せ人々を別
為合せ人々を別
ふ哀給ふべき事
ふ此事を恐ぶ事
願申奉る此状乎
云是を聞入下成
を是幸へ給ひ成
を悪病の不起や
此守已給安心し
此國の人安心し

地波神乃御諸阿麻多在野年々次々
荒堅乎。神税母修造利加彌波皇大
神乃敷堅須里々乃人乎加多良仁心
乎合世力乎合世仕奉留支乃有婆然
仕奉留人等曾殊尔良美賜比惠給
布倍物尔有止礼恐計申志乞禱尔奈此
支乎聞食氏秋穂八束穂乃伊賀志穂
状乎成志賜比疫病不起此國中乃人等
尔成志賜比疫病不起此國中乃人等
平久安久氣護惠美幸倍賜止幣十六自物
膝折伏鳥鳥須頸根衝拔氏恐美恐母
膝折伏鳥鳥須頸根衝拔氏恐美恐母

立て諸の業小功と
願申十六自物云
十三後十ニ前等
見合せし知可レ
○祈年祭ヒト祭
祈年祭ハ其年祭
豊作を祈る大祭
豊作の報賽の祭
を新嘗祭と云ふ祭
新嘗と云ハ祭ナリ
後と云ハ此祭ナリ
新穀を食むべから
底津磐根云前

申志給止白須。
此松乃屋大人の奉仕らふ
吉備津大神の御前を奉られし祝
詞ふ也
○祈年祭
此乃所乃底津磐根尔官柱太敷立高
天原尔千木高知氏天之御蔭日之御
蔭止定奉氏稱言竟奉留皇神乎始米
大年神御年神若年神乃御前尔白久
今年二月尔御年將初止爲皇今日乃

○のミと作例上

○三

天御陰云十五皇
 神乎始是八常
 大年神云幸穀ふ
 神詳ふの部幣帛
 奉代物由紀乃御
 食清地由物甕閉
 以下其奉る種々
 の物十以ふ九後
 前参考後十三
 皇神等其社々御
 年神百姓乃云前
 光一初穂乎云十
 後物穂をハ豊
 秋の生をハ豊
 作ふ成幸給へハ

朝日乃豊榮登尔奉留幣帛波由紀乃
 御食御酒波甕閉高知甕腹滿雙氏大
 野原尔生物波甘菜辛菜青海原尔住
 物波鱈廣物鱈狹物奥津藻菜邊津藻
 菜尔至麻氏如横山置高成氏奉留幣
 帛乎安幣帛乃足幣帛止皇神等乃御
 心尔平久所聞食氏百姓乃手肱尔水
 沫畫垂向股尔泥畫寄氏取作半奥津
 御年乎八束穂乃伊加志穂尔皇神等
 乃依志奉波初穂乎千穎八百穎尔奉

其新穀の初穂を
 申と御約定を申
 奉る如く馬白猪
 絹布云白馬白猪
 年神み奉る故
 事ハ古語拾遺
 夫ハ古語拾遺
 古伝有て古史伝
 不委しぬ注詳せ
 られむと欲せざ
 知らむと欲せざ
 夫を見らる可し

○田遊祭
 宇頭乃大前十二
 忌回里清回二十
 前かく同語の
 如く言ハ古風
 り古支法乃任尔

置氏稱言竟奉止御年皇神乃御前尔
 絹布乎白馬白猪白鶏三種乃代尔取
 易備奉氏稱言竟奉止白須
 此と祈年祭私祭の祝詞
 官祭祝詞ハ神社祭式ま多延喜式
 小見える也
 ○參河國一宮砥鹿大神
 田遊祭
 掛卷母畏伎砥鹿大神乃宇頭乃大前
 忌回里清回里慎美敬比恐美恐母

○のこしと例上
 ○四

其社々りの田旋神
古例云是より其状
事云を述る其の
了俳優云其の
て神の御前ふを
奉仕を以ふ神
隨かしの面白く
御覽大神乃御年
代々々神税を始所
の田殖を大取作
る物相を大風洪
水穂ハ長く實給ハ
宜一給ふ穂ふ成令
幸申まふ事ハ今
更事おれども朝
夕事云日々一苦
夕事云日々一苦

白須古支法乃任尔今日乃生日乃足
日尔田旋乃神事奉仕止爲旦大庭尔
神乃小枝乎折敷氏田所止爲旦種々
尔仕奉留神官等群立集氏耕播種子
分袂挿苗收稻乃状如須俳優奉仕状
乎神隨阿那可笑阿那面白止見行志
堅氏大神乃御年代乎始米四方乃公
民等我手肱尔水沫搔垂里向股尔泥
搔寄氏取作留奥津御年乎暴風洪水
尔不令相賜八束穗乃茂穗尔成幸倍

作する畑物山の手に
至るまで傷ふ事
程とく風雨と給ふ
で農業者の時給は
つれぬ或波野山
やうみ鳥の災を
尔云忌鳥の災を
猪の類ひの野
畑を荒らぬ所
へまよ善く成し給
るふは善く成し給
葉ふは善く成し給
生て稲葉と蝗の
害等の事云くお
彌益々事云くお
を澤山繁りて実
を給祈白
夕事云日々一苦

賜事波白母更那朝夕尔勞支作流
陸田種子等山縣尔蔣留甘菜辛菜尔
至留迄成傷布事无久風雨時節尔協
比農業乃時乎不誤或波野山尔住流
禽獸乃踈備荒備氏年穀等乎无傷事
種々乃病蝗乃灾无志彌益々尔立榮
延繁里令實賜止祈白須事乃由乎平
久安久氣聞食受賜止正月初三日乃夕
日降尔姓名恐美恐母白須
此を砥鹿大神乃御祭典乃祝詞

○のまとは作例上

○五

ハの后十二前
参考をべし

○火舞祭

八握劔大神 參河
宮祭大神 巳貴命
砥鹿大神 稱命
八十日日 九前後
隨例 神事 例の
火舞 神事 御
祭 別て 忌清
法 別て 忌清
より 殊に 之平
齋清 回云 十二前
御前 參大 宮毛
集りて 大庭 火を
焚て 大宮 火を

ま多神名月日ハ作例乃外
ま

○同社火舞祭

掛麻久母畏 八握劔大神 乃宇頭乃
大前 爾。姓名 慎美 敬比 畏美 畏美 白須
ヤソカヒ 波 雖有 母此 乃二月 乃初未
八十日日 降乎。吉月 乃吉日 乃吉時 告
日乃 夕日 降乎。吉月 乃吉日 乃吉時 告
隨例 齋定 氏。火舞 乃 神事 奉仕 止 流 爲 氏。
神官 等 諸 平常 里 殊 爾 齋清 回 氏。大前
爾 參集 波。里 大宮 毛 赫 久 計 里 庭 燎 乎
焚 氏。紙 以 互 作 留 花 形 止。折 鈴 乃 五十

赫光 紙以 互云 紙
て 御取 花と 鈴と
を 御取 花と 鈴と
持て 御取 花と 鈴と
奉 隨 云 狀 神 御
神 隨 云 狀 神 御
て 氏 地 云 始 覽
國 中 地 云 始 覽
ち 報 國 火 災 皇
天下 云 事 無 來 人
一 過 犯 事 乃 有 婆
後 過 犯 事 乃 有 婆
過 犯 事 乃 有 婆
神 凡 人 事 故
覽 御 上 有 御
う 大 直 日 有 一 有
家 火 災 乃 後 國

鈴手 御巫 我 二 手 取 持 氏。大前 乎 左
往 右 往 舞 訶 那 傳 氏。火 舞 仕 奉 留 狀 乎。
神 隨 見 行 堅 氏。大 神 乃 敷 堅 須 此 鄉 乎。
始 氏。大 八 洲 乃 國 中 波 火 神 乃 御 心 伊
知 速 備 健 備 堅 事 無 久 根 國 底 國 自 里
荒 備 疎 備 來 牟 枉 神 乃 禍 事 无 行 事 天
下 乃 千 五 百 萬 乃 人 等 乃 過 犯 須 事 乃
有 婆 神 直 日 大 直 日 爾 見 直 志 聞 直 志
堅 氏。國 母 家 火 乃 災 不 令 有 賜 夜 乃
守 日 乃 守 爾 守 幸 給 止 恐 美 恐 美 白 賜

○の乙と作例上

○六

夜昼ともみ守り
幸へ給へ以下十
二前参考

○奉遷御璽詞

志那邪加留越
越乃道口越前坂
北云郡村太前
云太前ハ大前
云同ハ意大前
言巷母云御名
ハ貴神風伊勢
折鈴五冠鈴百傳
度會の同志御惠
冠辞の同志御惠
如玉敷平安の豊

波久白須

此諄辞も前も同じ

○奉遷鎮稻荷大神御璽

掛卷母恐志那邪加留越乃道口坂
北郡泥原乃新保浦備尔齋奉留天照
大御神乃太前尔恐美恐白須言巷
母貴支神風乃伊勢国折釧五十鈴川
上尔稱辞竟奉留皇大神官尔次氏
百傳布度會尔堅須豊受皇神尔同志
御惠止阿賀米奉留玉敷平安京乃南

御食津大神

の亦の五社大神
御名食津大神
豊能賣神佐田彦
官上津大兄下津
大兄命の五社神
登牛馬乃上迄母
神世の古伝熟説
をへし詔伝史伝
不委多り大神乃
云即今言ハ官
云其御社の神ハ
依氏云依頼ハ願
ふ事御璽を捧け
奉り恐々御供し
の御社守相殿
云云鎮め奉る相

奈稻荷尔堅須大神御名波豊御食津

流大神乎始氏五社大神波萬乃業五穀
登牛馬乃上迄母守里幸閑給天照
皇大神乃御稜威比乎増給婆今年
年号月尔僕礼姓名稻荷乃三乃峯尔
参上里大神乃御殿乃預姓名尔依且
彌宜宇氣倍奉里御璽捧奉里恐美恐
美御供仕奉里歸里来与御相殿尔齋
比鎮奉留有状乎神隨母聞食氏相宇
頭奈比給止恐美恐白須

○のこしと依例上

一〇七

御社ミヤに奉相宇頭ウヅカミ
 齋イハヒを給タマフ諾ウケひコト言コト此コノ同トシ
 奈比ナヒ給タマフ古コノ言コト此コノ同トシ
 小分コノて一段イツク落オチ次ツギの
 辭コトを分ワケておこすオコス更さらなる
 是コトを分ワケておこすオコス更さらなる
 相殿アイハヒの齋イハヒ奉マツルるル狀カタチ
 辭コト別ワケ氏ウヂ言コトを廣ヒロク
 前マエ全ゼン前ゼン此コノ御殿ミヤ
 内ウチ云イハス同トシ齋イハヒ奉マツルるル
 在アリ聞ク食ク五イハ十ジュウ鈴スズ云イハス
 川カハ那ナ須スハ五イハ十ジュウ鈴スズ云イハス
 の三サンの峯ミネ如ニく未ミ遠トホク鈴スズ云イハス
 磐イハ等トウハ都ミヤコ祝イハヒ詞コト常トキ居イ
 申マウ綾アヤ居イ立タチ居イ

辭コト別ワケ氏ウヂ言コトを廣ヒロク
 常トキ磐イハ此コノ處トコロ竝ナラビ居イ坐マ坐マ
 新保浦ニホウラ乃ノ浦人ウラヒト母ハハ坂北サカキタ乃ノ山人ヤマヒト母ハハ海幸ウミサチ
 山幸ヤマサチ彌增ヤハマス穀コメ蠶サトウ諸モロ乃ノ業ノ母ハハ幸幣サキハヒ給タマフ波ハ
 任マニ々ニ來キ年トシ始ハジメ米メ年トシ每トシ禮代レイ乃ノ幣數ヒ
 乃ノ物モノ等トウ捧サゲ氏ウヂ齋イハヒ奉マツル里サト稱ナヅケ辭コト竟マツル奉マツル止トメ年トシ姓名ナニナ

聖ミヤコ年トシ御鎮坐ミヤコの如ニ
 此コノ上ウヘを引ヒキ起オキを次ツギの
 海幸ウミサチの事コト山幸ヤマサチ
 事コト年トシ毎トシ亦モ禮代レイ云イハス
 明年ミナトシとト捧サゲけて御祭ミヤマツル
 仕シ親族ミヤウヂ此コノ所トコロ乃ノ諸モロ
 奉マツル親族ミヤウヂ此コノ所トコロ乃ノ諸モロ
 人ヒト前マエ見ミるル可カ下シタ十ジュウ二ニ
 ○祭相殿坐稻荷イハヒミヤコイハヒ
 大神オホカミ
 天津神アマノカミ呂岐ロギ天皇ミカド皇祖ミコノ
 言コト依ヨシ志シ奉マツル里サト神カミ敎ノチ隨ツ
 中津圍ナカツクワイ云イハス皇居ミヤノイの地チ
 乃ノ安圍ヤスヰ止トメ知食チシク豐葦原トヨアシハラ乃ノ中津圍ナカツクワイ乃ノ北キタ
 乃ノ天津神アマノカミ呂岐ロギ乃ノ言コト依ヨシ志シ奉マツル里サト天皇ミカド御孫命ミコノ
 乃ノ安圍ヤスヰ止トメ知食チシク豐葦原トヨアシハラ乃ノ中津圍ナカツクワイ乃ノ北キタ

親族ミヤウヂ此コノ所トコロ乃ノ諸人モロヒト共ニ尔ニ恐オソシ美ミ恐オソシ母ハハ白須シラヒ
 此コノ越前圍エチノヰある其コノ代トコロにて物モノし
 給タマフへる祝詞イハヒコトなれハ志那邪加留シナヤカレと
 り下貳十字シムジウジまた終オハる新保浦ニホウラ
 の云々イハス下十字シムジウジハ其所コノの地名ナニナ
 乃ノ是コノハ心得ココロエ可カし
 ○奉祭天照大御神相殿坐イハヒミヤコイハヒ
 稻荷大神イハヒオホカミ
 天津神アマノカミ呂岐ロギ乃ノ言コト依ヨシ志シ奉マツル里サト天皇ミカド御孫命ミコノ
 乃ノ安圍ヤスヰ止トメ知食チシク豐葦原トヨアシハラ乃ノ中津圍ナカツクワイ乃ノ北キタ

○の記と作例上

○八

支賤支云貴賤相
里人云山の獵高
曾賀比云背の方
く浦人の海を多
ハ波堅に又御覽
向るけら多御覽
へる此御年恵ミ
と取作云悉く田
まの状より掛あ
泥原より受て田
作れる泥里子云
る事ふもあけ殖
と云桑の蝨を増
云越の蝨を産
冠津國の此國乃

取作留奥津御年母惠給比向波見
波良志堅須乃八鹽乃新保浦人
海幸乎得世曾賀比波返里見堅須坂
北乃山乃山人山幸乎増給比高幾
賤支志已我幸事無久喪无夜守日
守尔守幸比給開神官鹿自物膝折伏
鵜自物項根突拔氏恐美恐母白須
此を前も同じ北奈流志那邪加留
と下二十一字まる此道の口を
と下十二字次小角鹿の海の四字

應有獵漁の幸事
無久何事も喪無
く死以下十二事
合三后等見
○祭大雷神
此乃神床尔云三
十後二大雷大神
前神の御靈依
て成堅神古伝
り成美神白須
高天原云神魯岐
命乃御言を神魯美
ふり此二神ハ皇
ふ産靈神伊邪那岐

まぬ泥原の泥子加伎多里氏の十
一字は多新保浦人坂北の山の八
字其所の地名如字
○祭大雷神
此乃神床尔神籬立氏鎮奉里稱辞竟
奉留掛卷母畏支大雷大神乃大御前
尔慎美敬比拜美奉里畏美畏母白須
高天原尔神留堅須神魯岐神魯美乃
命以氏神伊邪那岐伊邪那美命大八
嶋乃国々嶋々乎生給比世乃人草乎

○のこしと作例上

○十

給布事无久文如四
荒備健備崇里
定原ふて御德
高天原ふて自
御事平拂給ふ
枉事平拂給ふ
有流枉事云世の
雷因生堅て大世
を斬給ふ其御靈
尔怒給ふ茲火神
火生給ふ茲火神
神土神水風神火
の神と給ふ四元
り夫を給ふ四元
惠を給ふ御心
も皆を給ふ御心
云の物を生給ふ

惠給止諸乃神達乎生給比麻奈乙子
尔火産靈神乎生給比伊邪那岐神火
結神乃御靈尔因氏大神乃生望世
尔有流枉事禍物乎拂給布木乃由乃
麻尔麻尔高天原尔始給志比事乎神隨
母知者志荒備健備崇里給布事无久
四方隅里荒備疎備來牟萬乃枉物
禍事乎攘給比追退給比此乃殿尔神
降米志給布事无久稜威乃御靈乎幸
閉給幣惠給幣宇頭那比給幣祈祝支

方云後此乃殿
云事殿小落雷
靈を幸宇豆那比
給幣講給祈祝
云如文一月毎の
可御稜威云雷鳴
礼ハ臨時云洩落
云前十夜乃守下
と二前見合後等
相殿云前三風神
四神皆夫々主司
の神大り諸共ふ
体如下文

乞願奉氏月毎乃朔日乃日止十五日
乃日乃定留祭波更奈御稜威乎振比
給波臨時其禮代止立奉留物等乃
洩落牟事波見直志聞直志給比罪犯
有婆宥給比恕志給比夜守日守尔守
幸幣給止閉鹿自物膝折伏世鵜自物頂
根突拔号平手打上氣畏美畏祈祝
支奉留事乃由乎相殿尔齋比奉留風
神火神金神水神土神諸共尔平久安
久聞看氏守里幸幣給止幣白須

○の乙と作例上

○十一

○拜藥神

大穴牟遲命少彦
名命祖神古伝の
詳二柱大神云
一合十前遠津
見合二前遠津
神代云神御
柱御心を修給
給皇心を修給
作堅大と稱奉
民の爲病を治
むる法を初め
ひ事古伝小詳
あ苦瀨云病む
て給へて拙者
助給業も大
医藥の業も大

○拜藥神

大穴牟遲命少彦
前爾姓名恐美
二柱相竝婆志
乎合世賜比諸
米賜氏國作堅
大神等諸乃病
比定給氏天下
乃苦瀨爾落氏
救給婆此某等
醫藥乃業母大
乃米具美賜比
志過事無久驗
賴乎恐美恐美
姓名恐美恐美
母美母美

の惠み申給
む事ハ申給
交事御靈と
大て其業を
ば験を現し
廣悦奉り憶
前奉る以下
○祭大國主神

乃米具美賜比
志過事無久驗
賴乎恐美恐美
姓名恐美恐美
母美母美
○鷄頭樹園爾鎮堅

己我別業云別
雞頭樹園其別
鎮大穴持命大
主命八千予大
名牟遲命と稱
固作云此御神
御心合給後
作堅給後

大國主神御前
己我別業流
持命乃大前
御代爾荒振
爾廣牙乎以
功成志賜比
御稜威止

○のそと依例上

○十二

給ひ納め 壽長久 云
壽命長く 身外
えり事なく 其
ぬ前事ハ 其
給へまふ 常
ふる神々 御
主親乃云 主
其心不違 御
即宮比神 御
徳を幸へ 給
愛敬風流 得
給へ我為業 乎
業成進業 悉
官人此風 御
跡を伺ひて 其
徳を仰く 其
集人等 云 親睦

受御祭仕奉 嚴志久聞 食志受納米
給氏 壽長久身 尔恙無久 天地乃不祥
有受 内外乃 惡事未萌 前尔遠久 拂
比退 介給 氏常 尔仕奉 留神等乃 御心
主親乃 御心 尔令 違受 衆人乃 愛敬 布
風流乃 趣乎 得志 給比 我為 須業 乎彌
進米進 米給 比願 布事等 如意 尔叶 志
給比 集布 人等 睦比 親美 萬世 尔繁 昌
延惠 良惠 良尔 笑比 饒波 門止 在志 答
過在 婆見 直志 聞直 志堅 氏夜 乃守 日

日て繁昌 笑ひ饒
ふ家と成 咎過有
乎云以下 十三前
婆三後 見十二前
合べし

○祭菅原神

天満大自在天神
是を普通の神号
今よてハ 菅清支
原大神 菅清支
赤支云 所謂此 献
云御酒 赤心 備
て主親の心を 聞食
師睦の友親 屬

乃守 尔堅 磐尔常 磐尔守 幸開 給幣 鹿
自物 膝折 伏世 鵜自物 頂根 突拔 氏恐
美恐 母美白 須

○祭菅原神

掛卷 母畏 支天 満大 自在 天神 宮乃 御
前尔 慎美 敬比 拜美 奉里 畏美 畏母 白
須清 支赤 支真 心以 是此 献留 神酒 御
備乎 平久 安久 聞食 氏主 親乃 心尔 令
違受 朋友 親族 睦志 師匠 乃教 乃如 尔
手習 比物 讀美 熟習 米波 志給 比心 正直

○の乙と作例上

手習讀物等克く
覺させ給ふ
心正直云神の直
道難を免れ命長
堅石云病事なく
家業を盛大に神
成さしめ給ひ神
御祭云各の祭先
祖の祭を怠事奉
志美給へ
祈申那り
○祈雨祭
産土神云其所
以ふ氏神と祭る
神以下十二前
後四後頭一前
考むべし序ふ少

此は少年輩の多免ふ作らせし詞
那也
○祈雨祭
此里乃産土神止持崇久掛卷母畏支
皇神乎始奉里高龍神間龍神天之水
奉留白須
祭乎美久仕奉米給止畏美畏祈願
久家業令興給氏神乃御祭先祖乃
比堅石尔常石尔壽命長久病支事無
尔神習米波志給比無實支難乎令免給

御龍神徳畧を述可
司給ひ水分神をハ
水多所へ分給ひ
早の奢母智給ハ
久比を降し給ふ
其徳あり天の國
之と云ると此
上久志云其状
頃久志云其状
憂尤麻与比云
与比の左ハ畧し
てまむひ如り世
武須倍や如らば
相宇豆能比記ふ
し神等相共記ふ
し給ひ騰てらぬ
降雷鳴をせぬ

分神國之水分神天之久比奢母智神
國之久比奢母智神天津神千五百萬
白久此頃久久雨降受日乃累殖志
田母時志畠母凋美枯奈武為我故尔
百姓等憂尤麻與比世武須倍不知仰
氏待天津水乎大神等相宇受能比給
氏高山乃末短山乃末里雨雲立保備
古里光神鳴波多々支氏速雨頻尔令
降氏貯留端山乃池波堤尔湛幣塞上

○のこしと作例上

○十六

類を拂ひ給ふ山
の貯池の堤まで
水を給り降るハ
水を蒔し渡らせ
田毎に所を辭せ
給へ云々祈る事
百姓以後禱申前
と文黒馬耳云々
祈晴ハ黒馬と云
○祈晴祭

此里乃産土神止持崇久掛卷母畏支
皇神乎始奉里高龍神聞龍神天水分
神固水分神天之久比奢母智神固之
久比奢母智神天津神千五百萬固津
○祈晴祭
此里乃産土神止持崇久掛卷母畏支
皇神乎始奉里高龍神聞龍神天水分
神固水分神天之久比奢母智神固之
久比奢母智神天津神千五百萬固津

勝り夫ハ高小對
ひて低き高小對
佐久那太理云々
落川瀬の龍まじり
て百姓云々前後
如寐母云々安事
文有迷大神等云
ひ有記世大神等
前と思食て雨雲
尤科戸乃風乃云
ハ科戸乃風乃云
科戸乃風乃云
名其神の御徳を
以て雲を掃除け
給ひ天津伊ハ發
伊照徹志語又發

神千五百萬乃皇神等乃御前白久
此頃雨雲久久覆比霖雨降氏高山乃
末短山乃末里佐久那太里尔落瀧津
川乃瀬溢氏百姓乃作物波五穀乎
始氏草乃片葉尔至留麻泥不生傷流
我故尔百姓等憂歎氏寐母不安佐麻
與比有乎大神等相宇豆那比給氏雨
雲乎科戸乃風乃氣吹掃氏天津日乃
伊照徹志百姓乃作物波五穀乎始
氏草乃片葉尔至留麻泥成幸幣給禱申

○のてと作例上

○十七

照通り給百姓以下
ふを云ふ述由
る前如し述由
○祈漁獵
吾大神奉神仕某
因云其願主の因
海人の辺網子云
網引人網を綿積
調て綿積ハ借字
云て綿積ハ借字
以て其海を借字
小住む其海を借字
大魚小魚盡く取
得し給はれ雨
風有て守給へ
事無く守給へ
下前二見るべし

須事乎進流白馬乃耳彌高尔所聞食
止。恐美恐母白須。
○祈漁獵
掛母畏支吾大神乃大前尔恐美恐母
白久某因某郡某村乃海人何某我網
子調氏引網尔綿積乃鱸乃廣物鱸乃
狭物乃有乃盡漏事無久落事无久取
得志給比雨零風吹母海幸違過都事
无久守給比幸給止禮代乃幣帛乎捧
持氏恐美恐母稱辞竟奉止白須。

○地震祭
此郷如宇斯波岐
以下十五後一の
前後見合後一の
御前二前十九後
家居云家居ハ震
もふる心傾きた
人々の上ハ安ら
行ゆらと歎成
よまをすべ知ら
向るを隣み給ひ
皇神云一後十五
合後等見令在給
如鹿自物云後二
文見合せ
前知可し

○地震祭
此郷乎宇斯波岐堅須皇神乎始米天
津神千五百萬因津神千五百萬能皇
神等乃御前尔白久此頃誰神乃御心
加奈韋震登村呂幾家居加多夫伎床
都備噪氏人々心母不安危美歎加志
自末比居乎憐美給比皇神乃宇斯波
伎堅須郷乃限波奈韋乃伊須々伎伊
豆都志伎事无久令在給止鹿自物膝
折伏宇事物頸根突抜氏恐美恐母白

○のこし作例上

○十八

○祈癒病

挂母畏支十一前後
大那牟遲大神少
彦名大神云即此
禁の祖神比日以下
如失母流死をる
文乃法乃任々
古乃法乃任々
の時二神を流祭
仰ぎ御神徳蒼生
北一恩頼十六今
後以下八前後十一
日後十一前後十一
大前乃云前見合

○祈癒病

挂母畏支大那牟遲大神少彦名大神
二柱乃大神乃大前亦恐美恐母白須
比日四方八乃里々病起氏人多
亦惱氏失母留不少事乎人々甚久歎
愁氏諸共尔議基知古乃法乃任尔大
神等乎招奉齋奉氏蒼生乎哀給布廣
支厚支恩頼乎乞祈奉止爲氏今日乃
生日乃足日尔禮代乃幣乎捧持氏大
神乃大前乎恐美恐母稱辞竟奉久白

恐二神の大前
神代乃云初代
神の事始給へる
医薬禁厭の方
今の世の幸へ給
至る迄幸へ給
助給ひ神救給
御徳ハ神の幸
へるま病み幸
堅一て病人等
直給幣癒給比
以下十二前
参考すべし
○御廐改造祭

須如此仕奉事乎平久安
代乃初乃時大神等乃諸乃病乎治留
藥方止禁厭方乎止定給比今世尔至迄
青人草乎助給比救給布恩頼乎神隨
幸幣堅氏病臥留諸人等乎直給比癒
給比撫賜比惠賜止恐美恐母白須
○御馬屋造竟多依時大神乃

○御廐改造祭

我皇大神常は神
由々志久見惡と
荒奴留云荒る

大前ふ白

我皇大神乃大前亦申久御馬屋乃由
々志久荒奴留宮司等歎支愁氏年經

○のてに作例上

の神官長今年愁
此國祭起人何
其諸國中伊邪那
比云誘ひ獎遠山
云木材を集神稅
云神稅今此文稅
勤功の造り最り
曾々母々云以馬
の事を引出言る
も云々然伊倍婆
云り云々然伊倍婆
其屋母大與曾

志今年此國乃某郡何止云布所
住留何某心乎起志國中乃人諸乎伊
佐那比須々氏遠山近山乃大木小木
乎打伐採氏持參來氏神稅乎不用氏志
美麗又造里奉里伊登毛以止母勤久志
大流功母奈有流曾々母々御馬波振
立留耳乃高支貴支神乃祭波古昔里
必率立留支氏古支祝詞毛御馬御
鞆具止言支然伊倍婆神乃來里給布
物氏其屋母大與曾八思布麻自支支

云其屋間敷事
云々思ふ間敷事
る如造里奉
波留云今かく造
實小喜り上れ造
立馬柱を増々敷
神馬の前後足不
へ踏堅免長く年
皇大神乃云大神
地ハ更ふり國中
小喧しき其無起
姓名此の人名起
壽波云其手長命
壽と成ハ其幸給
へまも其屋内給
く幸へ給へ如姓

乃前足凡後足凡志石根尔踏堅波
萬千年尔動事無久皇大神乃敷堅須
地佐夜宜無久姓名我壽波手長乃壽
止幸幣給比其家乃内人又姓名尔伊
佐奈波禮都留諸人母平久安久此中山
乃松葉須奈常磐尔堅磐尔令榮給聞恐
美恐母美白須
此是吉備大神乃御前子奉られ

○のてと作例上

名云此人名も發
其人小誇れ備
中山の松葉の
如く常磐の行末
へ以下十前給
○諸社拜詞
此處鎮堅社其御

大御神等乃御道
と御道も幾萬
大御道も幾萬
年經奉る道
背中奉る道
國中奉る道
天給ふ道
免給ふ道
津日嗣云云
親王云云
朝廷云云
乃府云云
方廳云云
手代云云
執民云云

祝詞まは然せ此中山乃の四字
々吉備の中山ふるはし詞形れ
ハ其心得有はし
○神職等諸乃御社乎拜奉留時其

御前白詞
此乃處鎮堅須掛卷母畏支大神
宇頭乃御前忌麻波理淨麻波理氏
慎美敬比畏母白須皇大御國波二柱
御祖乃大御神乃生堅留大御國志在
婆社大御神等乃御道波千世萬代無

大御神等乃御道
と御道も幾萬
大御道も幾萬
年經奉る道
背中奉る道
國中奉る道
天給ふ道
免給ふ道
津日嗣云云
親王云云
朝廷云云
乃府云云
方廳云云
手代云云
執民云云

極天地止共榮給波申更
那天津日嗣所知食須皇御孫命乃大
御代乎堅磐尔常磐尔齋奉茂御代乃
足御世尔幸幣給比親王等王等百官
人等乎長久平久守給比天皇我朝廷
尔伊加志夜久波延乃如久立榮衣令
仕奉給比是國乃府乃政廳尔天
皇乃大御手代止蒼生乎治米政古給
布府知事縣令乎始米司々乃人々乎
日尔異尔榮給比氏子乃益人等彌

○のまこと作例上

○九一

事 縣令と云ふべし縣司
 々 人云始各課を
 官 吏を日々氏
 榮 云氏子の人々
 子 云氏子の人々
 免 國中の人民
 禍 無く農業ハ豊
 饒 ふて屋内ハ
 々 親族ノ災無ク
 守 幸漏落云三十
 給 幸漏落云三十
 前 十二前矜尊情
 見 合ハし矜尊情
 皆 如謝奉前又述
 文 給を御礼を謝
 幸 給を御礼を謝
 去 良久を約れだ
 ル とふるふだ

益々賑比榮給比四方乃國乃青
 人草等種々乃禍無久取作五穀乎始
 米作止作留物等乎惡風荒水尔不相
 給ハ束穗乃茂穗尔成幸倍給比姓名
 家内乃諸人親族諸乃災難無久守幸
 幣給比漏落牟事婆神直日大直日尔
 見直志聞直志堅氏夜乃守日乃守尔
 護給比矜給布支乎尊美情志畏美畏
 美謝奉良久申須
 毛 謝奉良久申須
 神 乃里登作例上之卷尾

明治十六年十一月三十日版權免許
 同 十七年一月 出版 定價金二十二錢五厘

著述者 正七位 松下隆和

出版人 前川善兵衛

同 藤原熊太郎

大阪府士族 東成郡北平野町七丁目 二百八十三番地
 大阪府平民 東區南久宝寺町四丁目 八番地
 大阪府平民 南區二ツ井戸町濱 九二番地

